題字：三井明

ふるさと探訪

二枚橋の旧跡を巡る

二枚橋区の歴史を学ぼう

元区長（平成 6 年度第 71 代区長）三井明様より、長年、区民の皆様への研究資料として活用されてきた自作資料(各項目の手書き部分：実物はカレンダー大)を譲り受けました。区の学習会で活用させていただきます。

貴重な資料のため、区の財産として後世に伝えていくために、三井様が、「二枚橋区ふるさと探訪」（地域づくり活動委員会事業）の際に作成いただいた素晴らしい資料も取り入れながら、ホームページ用に編集いたしました。

区民の皆さんの二枚橋区を理解する資料として利用いただければ幸いです。

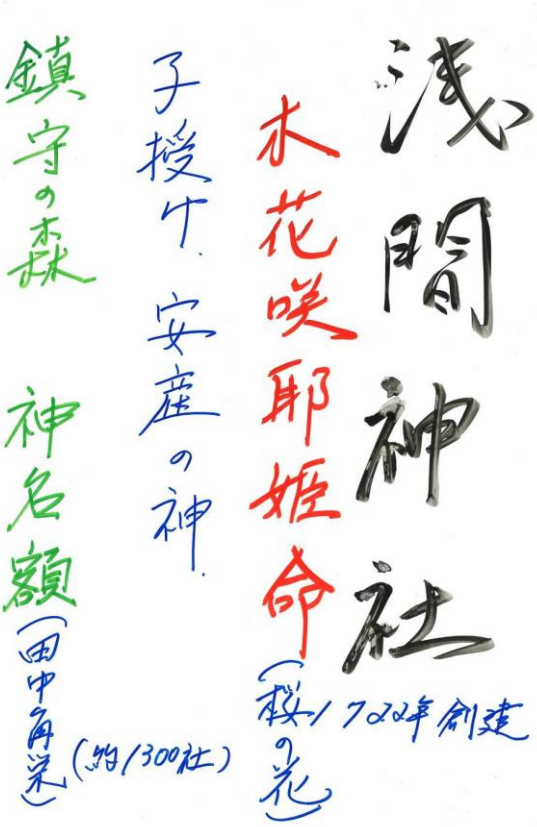
令和 7 年度区長　滝口盛治

作成：二枚橋区広報委員会

参考文献　区史「二枚橋」

資料提供　三井 明

二枚橋浅間神社



【二枚橋浅間神社】

創建・・社記によれば、大同元年（806）坂上田村麻呂が勅を奉りてここに社殿を造営し、享保７年（1722）９月に建立とされている。

御祭神は木花咲耶姫命で、子授け・安産の神、農業、火難除けなどのご利益がある。

社叢は欅、赤樫、白樫、杉、椿、公孫樹などの大木が茂り、鎮守の森として独特の様相をみせている。

【本殿の神名木額】

時の大蔵大臣、田中角栄書による浅間神社掲額。

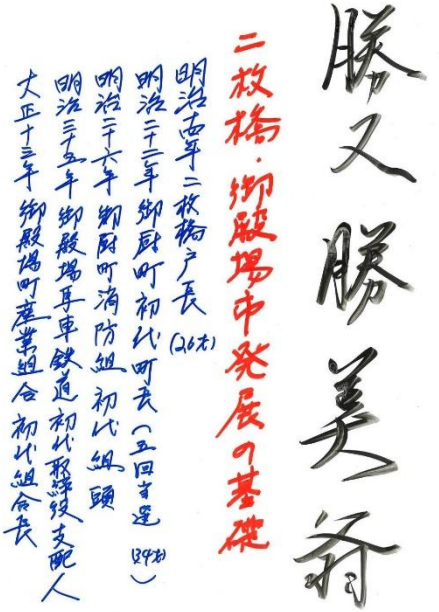
山口甚吾氏らの依頼によって揮毫されたものである

【狛犬】

境内に立つ一対の獅子である。

右が阿型、左が吽型。「あ」は開口音「ん」は閉口音（五十音の最初と最後）、常に神を守る魔除けの獅子である。

勝又勝美翁頌徳碑



今日の御殿場市政の道を拓いた最高の功労者である勝又勝美翁の碑の除幕式は昭和 32 年 5 月 10 日である。

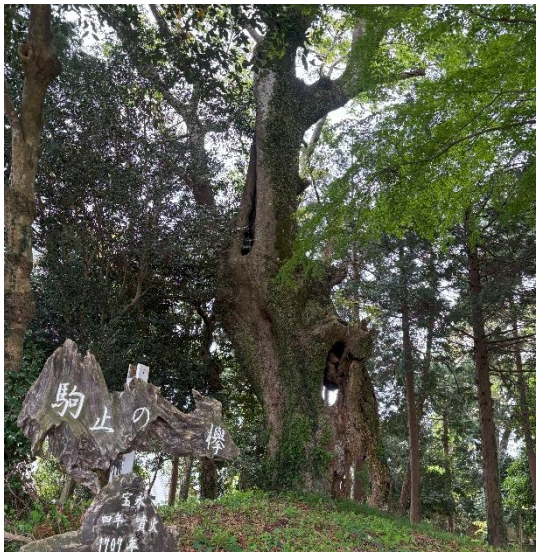
この碑建立の契機となったのは、郷土史家伴野京治氏の「二枚橋について」の冊子の一文であった。

時の内閣総理大臣、石橋湛山の書。

秋葉（穐葉）神社

火は人間に脅威と恩恵をもたらす。
もっとも古い資料である「明治 20 年穐葉連名帳」に記載されている人数は 33 名で、野木、高橋、滝口、仁藤、伴野、堀内、野田、勝又、小宮山、芹沢、深沢といった姓を読み取ることができる。
信仰の総本山は遠州の秋葉山本宮秋葉大権現であり、「防火」「火伏の神」として人々の暮らしを守っている。

駒止めの欅

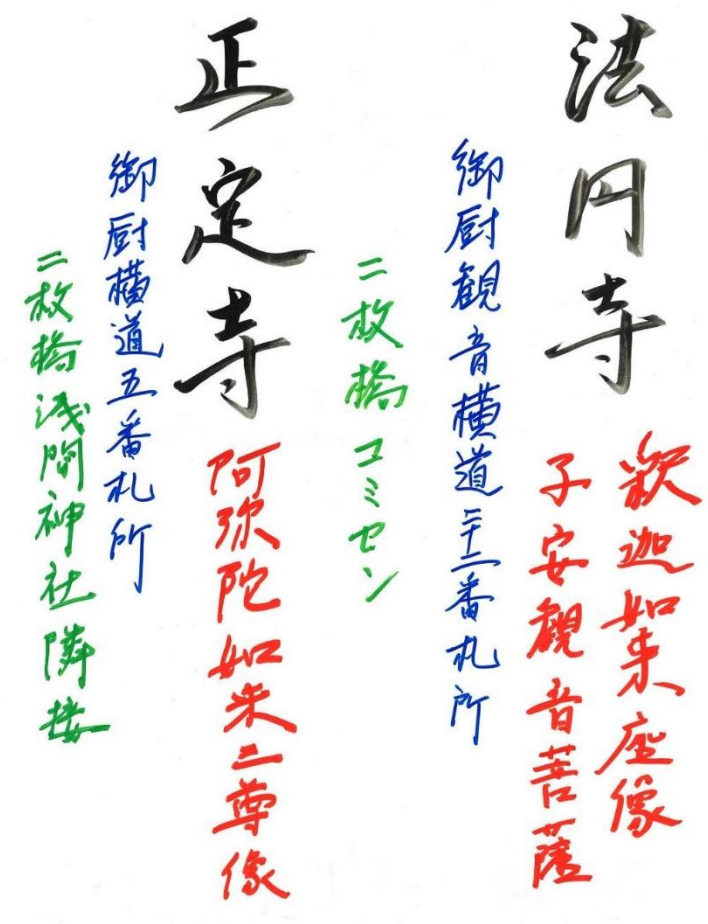


源頼朝が富士の巻狩りをしたのは、建久 4 年（1193 年）であった。
権勢を鼓舞し、結束を強めるための軍事訓練であった。30 万騎数万の軍勢など諸説あるが、その糧食を担った御厨の人々の苦労がしのばれる。
頼朝は巻狩りの休息のため、愛馬をこの欅に繋いだという。

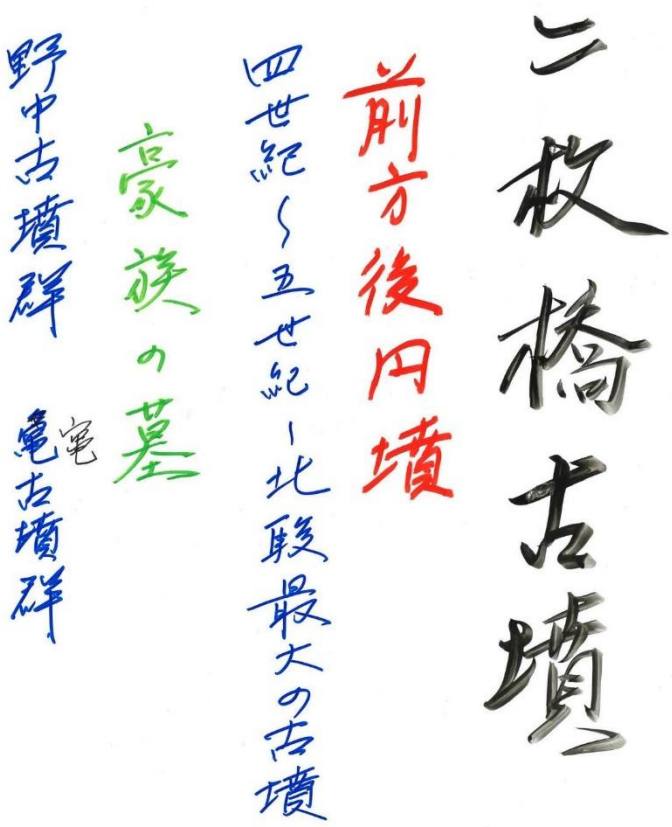
法円寺・定正寺

【正定寺】
浄土宗鎮西派に属し、本尊は阿弥陀如来の三尊立像である。
御厨阿弥陀横道 5 番札所。多くの仏像が保存されている。

【法円寺】（二枚橋コミセン）
明治の廃仏毀釈の中、明治 6～7 年ごろ廃寺となったと思われる。
宝持院の末寺であり、本尊は釈迦如来坐像と子安観音である。
御厨観音横道 22 番札所である。



二枚橋古墳



昭和 6 年、東京帝室博物館（現国立博物館）の後藤守一先生により、典型的な前方後円墳と確認された。
西暦 4～5 世紀の日本古墳時代に構築されたもので、北駿地方の豪族の墓であろうという。

忠霊碑

二枚橋出身の大東亜戦争戦没者 37 柱を祀る。
また、幾多の戦役に従軍し一命を皇国に捧げられた御殿場地区の英霊を合同で祀る。
塔は小学校の運動場に面しており、子供たちを温かく見守っているようだ。

道しるべ

【二枚橋の道しるべ】
昭和 6 年（1931）、二枚橋鮎沢川の川底を深くするため行っていた改修工事中に発見された。
自然石の道しるべには、中央に富士山、下に十里木、胎内、村山と刻まれている。
設置された年代は不明だが、村山浅間神社への道しるべである。足利時代（14 世紀ごろ）、今の富士宮市村山にある村山浅間神社は、富士山信仰の中心となっていた。

馬頭観音

頭上に宝馬を置くので、馬頭観音の名がある。
馬頭観音は、観音の中で唯一忿怒相である。
主に役馬の追善供養のため建てられたが、やさしく仏の教えを説いても聞き入れない衆生には怒りの姿で接して救済しようとする。
二枚橋区内では、５基の馬頭観音が確認されている。

道祖神

浅間神社入口の
道祖神（左）と庚申供養塔（右）

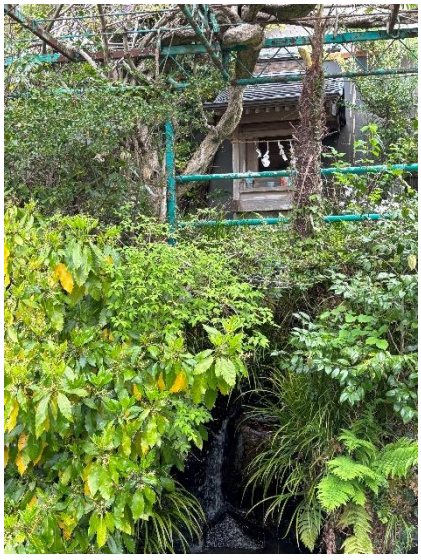
不動橋付近の双体道祖神

道祖神の大半は江戸時代に建てられた。
当時の集落の入り口などで、旅人や村人を見つめてきた。そして、疫病や悪鬼が村に入らないように集落の人々の生活を守り、あるいは、「道しるべ」として旅人に光明を与えてきた。二枚橋区内には、４基の道祖神が確認されている。
この道祖神の唯一の祭典が「どんど焼き」「左義長」である。

稲荷神社

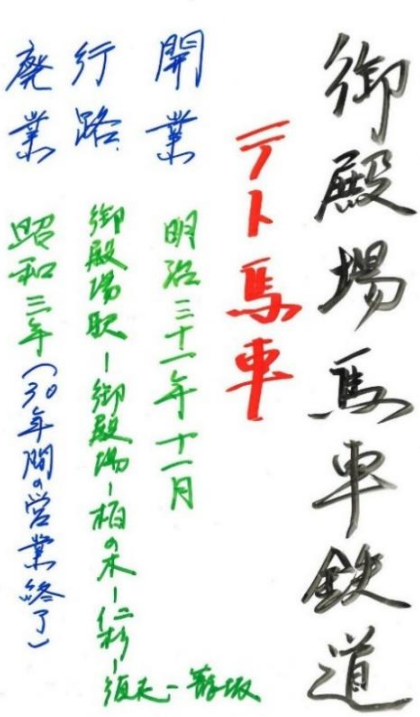
稲荷神社は稲作、農業と深く関係する農耕神。そもそも稲とは「命の根」を意味し、全産業の神として、様々なご利益が得られるといわれている。
全国に多数建てられており、いつでも頼れる身近な神様として信仰を集めている。

滝の上の不動尊



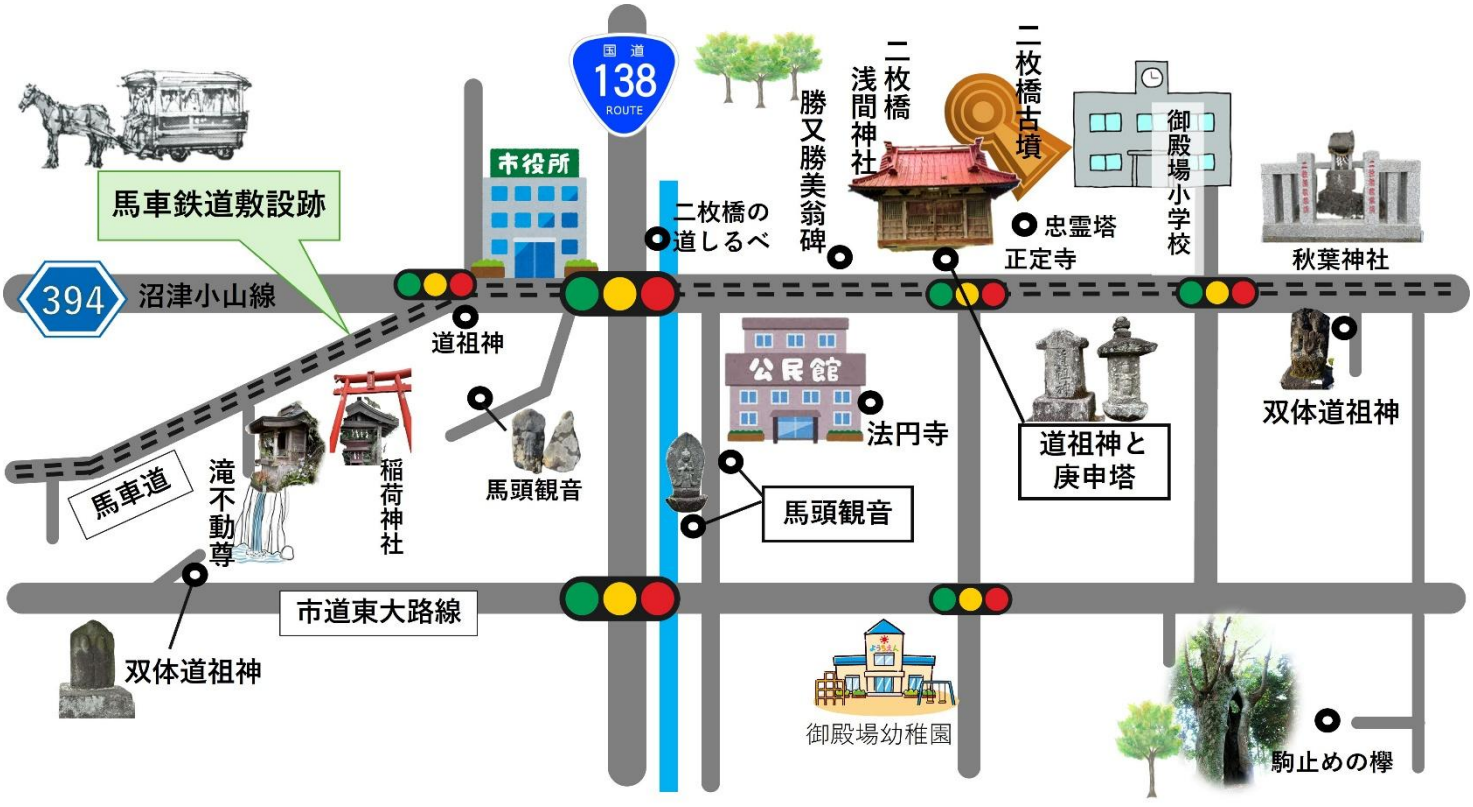
二枚橋の不動さんとも呼ばれ、かつては多くの参詣の人があった。貞享３年（1686）の二枚橋村指出帳に「滝不動壱社」の記録がある。
勝又秀彦氏の文書によれば、「祖先が滝を改造し、大聖不動明王を鎮座致しより千有余年」とある。

御殿場馬車鉄道



明治 31 年開業。東海道線御殿場駅から二枚橋の通称「馬車道」を経て、須走村まで達した。
御殿場馬車鉄道株式会社の初代取締役は勝又勝美（町長）。
馬車は警笛の代わりに豆腐屋が使うようなラッパを鳴らして走った。その音が「テトウ、テトウ」と響いたので、人々はテト馬車と呼んで人気の的となった。
明治 33，4 年ごろ全盛期を迎えたが、歴史の変遷とともに陰りをみせ、昭和 3 年、30 年間の歴史を閉じた。

「馬車道」の名が残る公園

馬車鉄道については、過去「公民館だより」で詳しく連載し、二枚橋区のホームページに保存されています。

ふるさと探訪略図